

島根県で発見されたヌマエラビル *Ozobranchus jantseanus* (環形動物門: ヒル綱: エラビル科)*

山内 健生¹⁾・伊藤 哲也²⁾

¹⁾ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県平田市園町沖ノ島 1659-5

²⁾北海道大学大学院理学研究科系統進化学講座 I, 〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

New Record of *Ozobranchus jantseanus* in Shimane Prefecture (Annelida: Hirudinea: Ozobranchidae)

Takeo YAMAUCHI¹⁾ and Tetsuya ITOH²⁾

¹⁾Hoshizaki Green Foundation, Okinoshima 1659-5, Sono, Hirata, Shimane Prefecture, 691-0076 Japan

²⁾Division of Biological Sciences, Graduate School of Science, Hokkaido University, Sapporo, 060-0810 Japan

Abstract Ozobranchid leech, *Ozobranchus jantseanus* Oka, 1912 was found in Shimane Prefecture, western Honshu, Japan for the first time. The leeches were collected from the external surface of Japanese freshwater turtle, *Mauremys japonica* (Temminck & Schlegel).

Key words : *Ozobranchus jantseanus* Oka, Hirudinea, *Mauremys japonica* (Temminck & Schlegel), first record, Shimane Prefecture

キーワード : ヌマエラビル, ヒル綱, ニホンイシガメ, 新記録, 島根県

ヌマエラビル(旧名:シナエラビル)***Ozobranchus jantseanus* Oka, 1912 は, 環形動物門 Annelida, ヒル綱 Hirudinea, エラビル科 Ozobranchidae***に属し, 体側部に 11 対の枝状突起を備える非常に特徴的なヒルである(図 1)。本種は淡水カメ類に寄生し, 国内では本州中央部, 国外では中国に分布するとされている(丘・長尾, 1965)。本短報では,

島根県におけるヌマエラビルの発見とその意義について報告する。

ヌマエラビルの発見・採集状況は以下のとおりである。2001年9月11日に島根県平田市鹿園寺町の境川で平田市立東小学校3年生一同が採集したニホンイシガメ *Mauremys japonica* (Temminck & Schlegel) の成ガメと, 2001年9月中旬に同町の境川上流で同校3年生の新宮弘美さんが採集したニホンイシガメの幼ガメを3年生の教室において新しい同一の水槽内で飼育していたところ, 9月下旬に飼育中の坂本祐麻君と大橋賢靖君が成ガメの背甲に1cm程度の生物が付着しているのを発見した。その後, 11月27日に採集されたこれらの生物(6

* ホシザキグリーン財団研究業績 第19号

** 大野(1998)で改称。

*** 従来本種の属する *Ozobranchus* 属はウオビル科 Piscicolidae の一属とされてきたが(Mann, 1962; 長尾, 1973; 丘・長尾, 1965), 近年ではエラビル科として扱われている(Sawyer, 1986)。

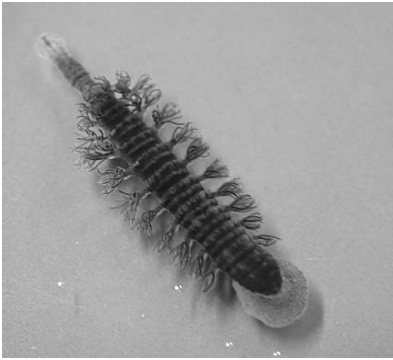


図1 ヌマエラビル

個体)が著者らの手に渡り、ヌマエラビルであることが確認された。なお、前述の2匹のニホンイシガメを調査したところ、2匹ともヌマエラビルの寄生がみられた。寄生部位は、頭部(眼窩)、口内(特に嘴付近)、頸と前脚の間の軟部、前脚後方基部、そして背甲上であった。

これまで、日本国内におけるヌマエラビルの記録をまとめた資料はなく、本種の分布は漠然としている。当初、ヌマエラビルは中国の揚子江産の個体を基に新種として記載され(Oka, 1912)、その後、日本産ヒル類のリスト(Oka, 1935)にも種名が挙がっている。しかし、このリストには本種の具体的な採集地が示されておらず、その後も日本国内の明確な採集記録が発表されないまま、「本州中央部の池、沼に産す」(丘・長尾, 1965)のように漠然とした記述がなされていた。なお、正式な記録ではないが、旧制時代の京大理学部の入試では、実際にヌマエラビルを見てその分類学上の位置を判定するという問題が出題されていたようで(宮地, 1963)、当時の本州中央部に本種が分布していたことがうかがえる。

著者らの知る限り日本国内における本種の明確な採集地は、栃本(1997)による兵庫県姫路市大津区(宿主:クサガメ *Chinemys reevesii* (Gray))のみである。したがって、今回の島根県におけるヌマエラビルの発見(島根県初記録)は日本国内における本種の数少ない明確な採集記録であり、これによって本種が本州西部(中国地方)に分布

することが明らかとなった。

謝 辞

ニホンイシガメを熱心に飼育し、カメに付着していたヌマエラビルを発見・採集した平田市立東小学校3年生の皆さん(その中でも谷口七海さんには特にお世話になった)と、ヌマエラビルの調査に多大な便宜をはかってくださった同校の田中靖子校長、渡部彰子教諭、そして田中庸子教諭に心からお礼申し上げる。また、文献についてご教示くださった島根県立宍道湖自然館の栃本武良館長、東洋大学の野正男教授、およびホシザキ野生生物研究所の淀江賢一郎所長に深謝する。さらに、ヌマエラビルの採集に協力していただいた島根県立宍道湖自然館の寺岡誠二氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Mann, K. H. (1962) Leeches (Hirudinea) Their structure, physiology, ecology and embryology. pp. 1-201, Pergamon Press, Oxford.
- 宮地伝三郎(1963) 淡水の動物誌. 228pp. 朝日新聞社. 東京・大坂・北九州・名古屋.
- 長尾 善(1973) ヒル類 Hirudinea. 川村日本淡水生物学(上野益三編) 356-361. 北隆館. 東京.
- Oka, A. (1912) Eine neue *Ozobranchus*-Art aus China. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 8: 1-4.
- Oka, A. (1935) Aperçu de la faune hirudinéenne japonaise. *Proc. Imp. Acad. Tokyo*, 11: 240-241.
- 丘浅次郎・長尾 善(1965) シナエラビル. 新日本動物図鑑[上] 569. 北隆館. 東京.
- 大野正男(1998) 日本野生生物目録(45) 環形動物門ヒル綱. 日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(無脊椎動物編 III) 環境庁編) 47-49. (財) 自然環境研究センター, 東京.
- Sawyer, R. T. (1986) Leech biology and behaviour Vol. II, feeding biology, ecology, and systematics. pp. 419-793, Clarendon Press. Oxford.
- 栃本武良(1997) シナエラビル. 兵庫の自然探訪: 123. 兵庫県生物学会. 神戸.